

第 67 回日本生殖医学会学術講演会

O-111

横浜、2022.11.3-4

題名：卵巣過剰刺激症候群と D-ダイマーの経時的推移

井上朋子・脇川晃子・道端肇・北山利江・姫野隆雄・貫井李沙・小宮慎之介・浅井淑子・森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 D-ダイマーはフィブリン分解産物であり、血栓症の診断に用いられる。卵巣過剰刺激症候群（OHSS）では腫大した卵巣の毛細血管の透過性が亢進して、血管外に体液が漏出して血液濃縮が起こりやすいことが知られている。そのため OHSS 発症時は血栓症予防に努めなければならないが、採卵後の D-ダイマーがどのように推移するのかは知られていない。OHSS ハイリスク患者の D-ダイマーについて調べた。

【方法】 研究期間は 2020 年 1 月から 2021 年 12 月。採卵のための卵巣刺激の結果血中エストラジオール E2 最大値が 3000pg/mL 以上になった患者で、採卵日と採卵後 14 日以内の D-ダイマーの値を調べた。さらに D-ダイマー値に影響する因子について多変量解析にて検討した。研究参加者には書面によるインフォームドコンセントを得ている。

【結果】 採卵日とその後の血中 D-ダイマーを測定した患者は 227 名で、平均年齢 36.2 歳で最大 E2 値は 4372 ± 1382 pg/mL であった。採卵当日を day 0 として D-ダイマー値は、0.22 μ g/mL (day 0)、0.97 (day 1-4)、1.81 (day 5-6)、2.31 (day 7)、2.46 (day 8-9)、2.45 (day 10-14) と推移した。腹水貯留と卵巣サイズのピークは day 1-4 にあった。LH トリガーとしてヒト絨毛性ゴナドトロピン HCG でなくゴナドトロピン放出ホルモン GnRH を用いることは、D-ダイマーを低下させる因子であった ($p < 0.01$)。

【考察】 OHSS ハイリスク患者では腹水貯留や卵巣腫大などの臨床症状に比べて、D-ダイマーの低下が遅延することが分かった。OHSS と血栓症のリスクが高い症例では LH トリガーとして可能な限り GnRH を選択することが望ましい。